

校訓	盡己	令和7年度学校通信 「松中だより」 第26号	発行日	令和8年3月13日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【3. 11】

3月11日で東日本大震災から15年がたちました。各地で追悼の行事が行われました。震災当日、伊丹市ではちょうど卒業式の終わった後で、ホッとしていたところでした。当時勤めていた荒牧中学校では少し揺れを感じた程度でした。その後、テレビ流れる東北地方の津波の様子に食い入るように見ていました。

それから3年後の2014年、震災復興コンサートを行うため、東阪神地区の50名の吹奏楽部中学生と宮城県名取市を訪問しました。名取市は仙台空港のあるところで、津波で大きな被害が出たところです。仙台市内のホテルに宿泊したのですが、震災から3年経過しており、仙台市内は震災の傷跡も分からないほどで、「杜の都」といわれる美しい町並みが続いていたように思います。

翌日、名取市の中学生との合同演奏会で、和やかな雰囲気の中、練習、本番を迎えました。交流会もあり、生徒たちは関西弁の話などで大変盛り上がり、仲良くなり、笑顔のなかでイベントを終えました。

生徒用のお茶の買い出しに、名取市の先生と車で移動していたときのことです。何気なく「地震や津波の被害はどの程度だったのですか？」と尋ねてみました。

その時の先生の答えに
ショックを受けたのを覚えています。



「私の学校では津波で、生徒が2人亡くなりました。
海に近い学校はもっとひどかったです。」

演奏会が終わり、ちょっと浮かれた気分になっていたのですが、一緒に演奏して、笑いあった人たちが、どんな思いをしてきたのかと思うと、とてもつらくなりました。

翌日、津波で壊滅的な被害を受けた、海沿いの閑上（ゆりあげ）地区を訪問しました。7000人ほどが住んでいたらしいのですが、一面の原っぱで、人の気配はありませんでした。当時、多くの人々が避難した閑上中学校では犠牲になった14人の生徒の慰霊碑や流された車が突っ込んだ1階の様子、浸水の跡の残る2階教室の黒板などを見学し、校庭の向こうから黒い津波が押し寄せてきたこと、理科室でカーテンにくるまり、アルコールランプで授乳用のお湯を沸かして夜を過ごしたこと、救助にはアメリカ軍が一番先にやってきた事など震災当時、閑上中学校に勤務されていた教員の方から話を聞きました。

経験した者、行った者、見た者にしか分からないことがあります。地震は防ぐことが出来ませんが、備えることは出来ると思います。事実を聞き、忘れない、風化させないことが大切だと思いました。

【いよいよ卒業式】

公立入試が終わり、月曜日は卒業式です。3月16日がさわやかな一日になればと思っています。

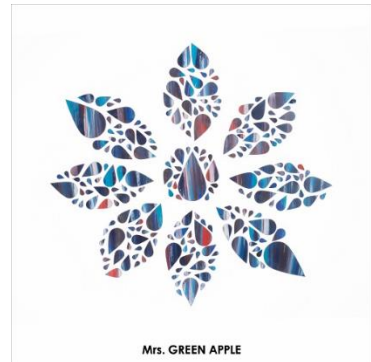
2月27日に県立伊丹西高校の卒業式に行ってきました。伊丹西高校の校長先生が式辞の中で Mrs. GREEN APPLE の「僕のこと」という歌を紹介していました。この歌は第97回全国高等学校サッカー選手権大会の応援歌だそうです。歌詞の一部を紹介します。

.....前略.....

僕らは知っている
奇跡は死んでいる
努力も孤独も
報われないことがある
だけどね
それでもね
今日まで歩いてきた
日々を人は呼ぶ
それがね、軌跡だと

ああ なんて素敵な日だ
幸せに悩める今日も
ボロボロになれている今日も
ああ 息をしてもがいている
全て僕のこと
あの日の僕らのこと

僕と君とでは何が違う？
それぞれ見てきた景色がある
僕は僕として、いまを生きてゆく
とても愛しいことだ



<曲目 解説より>

「Mrs. GREEN APPLE の「僕のこと」は、人生の酸いも甘いも肯定する青春の「人生賛歌」です。報われない努力や葛藤、青春の日々を「僕」の視点で描き、自分自身を肯定するメッセージソングであり、夢が破れた日も成長の過程として大切にするという強い意味が込められています。」

「自分勝手」ではなく

「自分らしく」